

令和6年度 岐阜県 英語教育改善プラン

言語活動を通して、積極的に自分の思いや考えを発信し、
伝え合う喜びを実感できる児童の育成

目標

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ◆英語教育実施状況調査より
 - ①児童の英語による言語活動の割合 授業中50%以上の時間、言語活動を行っている。
(R4:97%⇒R5:100%)
 - ②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表、達成状況の把握
(公表 R4:84%⇒R5:100%)
(把握 R4:96%⇒R5:100%)
- ◆全国学力・学習状況調査より
 - ③英語の勉強が好きな児童の割合 (R3:65%⇒R5:67%)

未だ改善が必要な点

- ◆英語教育実施状況調査より
 - ①「話すこと [やり取り]・発表」のパフォーマンステストの実施回数が多く、適切な評価に課題がある。
 - ②児童が学習者用デジタル教科書を活用した授業を50%以上の授業で実施した割合
(R5:47%)

2. 要因分析

①②学校訪問や各種研修会等の機会を捉え、言語活動を通じた指導について繰り返し周知したことで言語活動の割合や学習到達目標の公表、達成状況の把握の割合が増加したと考えられる。

③教師が目的や場面、状況等を具体的に設定した課題を提示し、言語活動に取り組んだことで、英語の勉強が好きな児童の割合が増加したと考えられる。

①「指導と評価の一体化」を踏まえた評価に関する理解が十分でないことが要因であると考えられる。

②学習者用デジタル教科書の活用に、地域間の差が見られる。教員が学習者用デジタル教科書の効果的な活用方法について、理解できていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

◆「英語教育推進事業」(継続) (①②③①②)

- ・英語教育推進校(小4校、義1校)への継続的な支援(授業の事前相談、研究会での指導・助言等)
- ・推進校による域内英語教員への授業公開
- ・県HP、e-learningシステムによる事業成果の普及

◆「『指導と評価の一体化』による学習評価の充実・推進事業」(継続) (①②③①②)

- ・「リーディングスクール」による実践研究への支援
- ・研修会・実践発表会のオンライン公開
- ・取組の分析・成果をリーフレットにまとめ、県全体へ普及

◆教育センター研修講座の充実(①②③①②)

- ・校種を越えて合同で行う研修講座の実施
- ・指導内容の質の向上を目指した実践事例の共有や活動モデルの提示
- ・小学校英語専科教員への研修を継続
- ・学校訪問を行い、指導の具体を学ぶ機会の設定
- ・学習者用デジタル教科書の利活用に関する研修を実施

◆一定の英語力を有する小学校教師の新規採用

- ・「英語」の普通免許状又は一定の英語力を有する志願者への加点制度
- ・県内の教員養成系学部を有する大学等との連携強化

令和6年度 岐阜県 英語教育改善プラン

言語活動を通して、積極的に自分の思いや考えを発信し、 伝え合う喜びを実感できる生徒の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5: 56.5% ⇒ R6: 58%)

目標

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

◆英語教育実施状況調査より
①生徒の英語による言語活動の割合 授業中50%以上の時間、言語活動を行っている (R4:94%⇒R5:100%)

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の公表、達成状況の把握 (公表 R4:90%⇒R5:100%) (把握 R4:99%⇒R5:100%)

①R5全国学力・学習状況調査の結果より、「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の領域において、課題が見られた。

② R5全国学力・学習状況調査の質問紙調査より、「英語の勉強が好き」な生徒の割合が減少した。(R3:55%⇒R5:50%)

③生徒が学習者用デジタル教科書を活用した授業を50%以上の授業で実施した割合 (R5:47%)

2. 要因分析

①②学校訪問や各種研修会等の機会を捉え、言語活動を通じた指導について繰り返し周知したことで言語活動の割合や学習到達目標の公表、達成状況の把握の割合が増加したと考えられる。

①「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の言語活動は行っているが、自分の思いや考えを十分に伝え合うまでには至っていないことが考えられる。

②コミュニケーションを行目的や場面、状況などが明確に設定されておらず、生徒が言語活動に取り組む必然性を十分に意識できていないことが要因と考えられる。

③学習者用デジタル教科書の活用により、地域間の差が見られる。教員が学習者用デジタル教科書の効果的な活用方法について、理解できていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

◆「英語教育推進事業」(継続) (①②①②③)

- ・英語教育推進校(中5校、義1校)への継続的な支援(授業の事前相談、研究会での指導・助言等)
- ・推進校による域内英語教員への授業公開
- ・県HP、e-learningシステムによる事業成果の普及

◆「『指導と評価の一体化』による学習評価の充実・推進事業」(継続) (①②①②③)

- ・研修会・実践発表会のオンライン公開
 - ・取組の分析・成果をリーフレットにまとめ、県全体へ普及
- ◆令和5年度全国学力・学習状況調査を踏まえた「指導改善資料2023」の周知徹底

- ・教育課程研究協議会にて授業の具体で研修を行う。
- ・各地区の市町教育研究会にて紹介する。

◆教育センター研修講座の充実(①②①②③)

- ・校種を越えて合同で行う研修講座の実施
- ・指導の内容や質の向上を目指した実事例の共有や活動モデルの提示
- ・学校訪問を行い、指導の具体を学ぶ機会の設定
- ・学習者用デジタル教科書の利活用に関する研修を実施

◆教員の英語力向上に資する研修の充実、啓発

- ・国外大学プログラム
- ・e-learning
- ・ALTとの授業デザイン研修

*いずれも小・中・高等学校教員対象

令和6年度 岐阜県 英語教育改善プラン

言語活動を核にした授業デザインによる「指導と評価の一体化」の推進

目標

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5: A2以上 48%、B1以上 19% ⇒ R6: A2以上 53%、B1以上 25%)
- スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合 (R5:34% ⇒ R6:70%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

◆英語教育実施状況調査より

- ①英語の授業において、授業の50%以上の時間、生徒が英語による言語活動を行っている割合の改善(R4:47%⇒R5:52%)
- ②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況把握の改善 (R4:36%⇒R5:41%)

未だ改善が必要な点

◆英語教育実施状況調査より

- ①英語の授業において、授業の50%以上の時間、英語担当教員が英語を使用する割合 (R4:35%⇒R5:32%)
- ②スピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストを両方実施している割合 (R4:34% ⇒ R5:34%)

2. 要因分析

①②観点別評価や生徒に身につけさせたい力等について、教育課程講習会や各種研修、学校訪問等の機会に周知している。ペーパーテストでは測れない力を評価することの必要性が認識されつつあり、普段の授業においてもコミュニケーションの場面を意識した言語活動が活発になりつつある。また、「CAN-DOリスト」を活用した目標と達成状況の把握が少しずつ定着している。

①授業における生徒の言語活動は増えつつあるが、生徒と英語教師による英語でのコミュニケーションや英語を話すモデルの提示が十分でないと思われる。

②パフォーマンステストの実施が学校や担当教師の裁量に任されており、各校の状況に応じた指導助言が必要である。また、好事例の共有が不十分であり、先進的な取組が県内に普及していないと思われる。

3. 目標を達成するための施策・事業

◎「指導と評価の一体化」に向けた授業改善(①②①②)

- ◆「授業力向上推進プロジェクト委員」の有効活用
 - ・本県の英語教育の課題に即した研究テーマの設定（グローバルに活躍することが期待される層の拡充を含む）
 - ・取組や成果の普及（教育課程講習会で発表及びHPで紹介、研修での活用等）
- ◆教育センター研修講座等の充実
 - ・対面とオンラインの併用による参加しやすい研修を実施
 - ・授業改善のための事例紹介及びワークショップの実施
 - ・授業内外でのALTの効果的な参画に向けた研修を実施
- ◆教育課程講習会や学校訪問等における課題及び目指す方向性の共有
 - ・学校訪問や出前講座において、指導主事による各学校の課題やニーズに応じた指導助言
 - ・パフォーマンステストの事例収集による各校での実施を促進

◎学校種及び課を越えた連携の強化(①②)

- ◆校種を越えた主事の連携
 - ・生徒の学びを接続させるため、各学校種が抱える現状と課題を合同主事会にて共有
 - ・研修の合同実施、他校種の授業参観の機会を確保
- ◆事業での連携
 - ・「英語教育推進校事業」と「授業力向上推進プロジェクト委員」を中心とした校種間の教師連携や情報共有

岐阜県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	48	53		55		57		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	25	19	25		27		27		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75	52	75		75		75		75		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	70	34	70		70		70		70		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	70	41	70		70		70		70	
		達成状況の把握(%)	70	41	70		70		70		70	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	85	89	90		90		90		90		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75	32	75		75		75		75			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55	57	57		58		59		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	100	100		100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	92	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	34	50		50		50		50		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	94	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	100	100	100		100		100		100
		達成状況の把握(%)	100	100	100		100		100		100